

科目名	宗教史Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	G2-03-141	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ること、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、イスラム教の歴史、東アジアの宗教、さらには現代社会における新宗教の歴史を踏まえつつ、今日に続く宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標

人類における宗教的営みの中で、イスラム教や東アジアの諸宗教、現代社会における新宗教が、歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. イスラム教の歴史①—ムハンマドの生涯—
3. イスラム教の歴史②—イスラム国家の誕生—
4. イスラム教の歴史③—イスラム各派の発生—
5. イスラム教の歴史④—復興主義と原理主義—
6. 東アジアの宗教①—儒教の誕生—
7. 東アジアの宗教②—儒教の展開—
8. 東アジアの宗教③—道教の成立—
9. 東アジアの宗教④—道教の神々—
10. 東アジアの宗教⑤—神道の世界—
11. 東アジアの宗教⑥—神道の変遷—
12. 現代社会と宗教①—世界の新宗教—
13. 現代社会と宗教②—日本の新宗教—
14. 現代社会と宗教③—スピリチュアリズムと現代社会—
15. 講義のまとめ定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

- ・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる（60分）

テキスト

※プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房） ・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21）※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（50%）、授業時に課す小レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教の歴史について大まかに理解している。
- (B) 各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
- (A) 各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
- (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。